

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：33932
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：20K02640
研究課題名（和文）インクルーシブ保育技術の視覚化 - 重症心身障害児との関わり合いを促す新たな試み -

研究課題名（英文）Visualization of Inclusive Childcare Techniques -A New Approach to Encourage Interaction with Children with Severe Physical and Mental Disabilities-

研究代表者
小柳津 和博 (Oyaizu, Kazuhiro)

桜花学園大学・保育学部・准教授

研究者番号：60803707
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では重症心身障害児を含む集団の保育として、子ども同士が関わり合う上で必要な保育者の専門性を可視化することを主たる目的とした。重症心身障害児を含む集団の保育に必要な保育者の専門性として、4種類の保育を創造する力の概念の存在を明らかにすることができた。特に姿勢や運動発達に着目して保育を創造することが重症心身障害児を含む集団としての特徴であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、これまで明らかにされていなかった重症心身障害児を含む集団の保育において、保育者の専門性の一部を可視化することができたことである。これらの成果によって、保育者が自身の力量を把握できるような指標を得ることや、保育者にとって自身のキャリア形成につながる道程を得ることにつながる事が期待できる。

研究成果の概要（英文）：The main objective of this study was to visualize the expertise of necessary teachers for childcare of groups that include severely mentally and physically handicapped children in their interactions with other children. As a result, we were able to clarify the existence of the concept of the ability to create four types of childcare as the expertise of necessary teachers for the care of groups that include severely mentally and physically handicapped children. In particular, it was suggested that childcare with a focus on posture and motor development is a characteristic of groups that include severely physically and mentally handicapped children.

研究分野：特別支援教育

キーワード：インクルーシブ保育 重症心身障害児 関わり合い 専門性

1. 研究開始当初の背景

近年ノーマライゼーション思想が進展し、障害のある・なしにかかわらず、子どもたちが共に保育・教育の場で生活することの重要性が叫ばれている。1994年のサラマンカ声明において「特別ニーズ教育」、「インクルージョン」という概念が提示したことにより、インクルーシブ保育・教育を志向する流れになった(小山,2013)。インクルーシブ保育とは、困難さを経験しているすべての子どもたちが包容される状態(三木,2017)とされ、国内でも広がりを見せている。2018年改定の保育所保育指針では、障害児が他児との関わり合いの中で育つことについての重要性を掲げており、インクルーシブ保育の推進が図られている。

海外、特にアメリカでは、様々な職業におけるコンピテンシーという考え方が示され、専門職に必要な技術を標準化する取組がなされている。教育分野においても、インクルーシブ教育の標準化された技術について、今後の研究成果の報告が期待できる。わが国も、浜谷ら(2018)を中心にインクルーシブ保育の研究が進められており、発達障害児と他児との関わり合いについての報告は充実してきた。しかし、近年増加傾向にある重症心身障害児に関しては、特別支援教育分野の重複障害児教育として安藤ら(2015)を中心に研究成果が蓄積されてきたものの、他児との関わり合いに必要な技術に着眼した研究は十分とは言えない。すべての子どもが包容されるインクルージョン理念の拡大に向け、障害の重い子どもより豊かな社会生活を構築するために、他児との関わりの中で共に育つ力をどう育むかについて保育技術の検討が必要であると考えた。

2. 研究の目的

インクルーシブ保育の実践及び研究は近年充実されつつある。今後、日本でのインクルージョン理念をさらに推進するためには、保育者がインクルーシブ保育に必要な保育技術を理解し、能動的に身に付けていくことが望まれる。しかし、インクルーシブ保育に必要な具体的な保育技術について定義となる指標は国内で示されているわけではなく、各施設での保育目標を基に各保育者が自分に必要な技術を見極め、それぞれで高めている現実がある。堀(2017)が指摘するように、インクルージョン理念が広がっているイギリス等において、子どものニーズ把握における基本的な方法や方向性が不明確であるなどの課題がある。わが国においては高尾(2016)がOECD、アメリカワシントン州の先行研究を基に、日本の保育者向けインクルーシブコンピテンシーの開発に着手している。しかし、様々な事情を反映した公約数的な研究である点を課題としており、国内で近年増加傾向にある重症心身障害児を対象とした関わり合いを促す保育技術への着目は十分とは言えない。そこで、障害の重い子どもが他児と共に関わり合い、育ち合う中で豊かな生活に結び付けるための保育技術は何かを可視化することを、本研究の主たる目的とした。

3. 研究の方法

重症心身障害児と他児との関わり合いを促すために必要な保育技術を可視化することを本研究の主たる目的とし、保育者の自己評価として活用できるかについて実践を行う中で検討する。本研究の目的となるインクルーシブ保育の技術を可視化するために、研究1から4の方法で実施した。

【研究1】

研究重症心身障害児を含むインクルーシブ保育を実施する保育施設の協力を得て、保育場面

の観察を行った。重症心身障害児と他児の関わり合いを促した場面の映像と、保育者の語りを基に、保育者の配慮を具体的に言語化・可視化した。

【研究2】

職業専門性研究が進むアメリカ、インクルーシブ教育研究が進むイギリスを対象に、障害児教育施策について文献を通して分析を行った。子ども同士の関わり合いを促すための各国の鍵項目を探り、わが国での活用が可能かを検討した。

【研究3】

重症心身障害児を含むインクルーシブ保育を担う保育者を対象に、場面想定法を用いたアンケート調査を行い、子ども同士の関わり合いを促す上で必要となる保育技術を明らかにした。

【研究4】

研究1から4を踏まえて、インクルーシブ保育に必要となる保育技術として可視化された観点を整理する。可視化された観点を基にインクルーシブ保育自己評価表(試案)を改訂し、発展した自己評価表(改訂版)を構築する。

4. 研究成果

2020年4月から2024年3月の研究期間において、研究成果として論文7点、学会発表7点を発表した。詳細は以下の通りである。

【研究1成果(論文)】

小柳津和博(2020.11)インクルーシブ保育における関わり合いの意義 重症心身障害児と共に学ぶことによる教育的価値を考える .桜花学園大学保育学部研究紀要,22, 27-37.

インクルーシブ保育における子ども同士の関わり合いの意義について、国内の報告を基に検討した。重症心身障害児を含む集団で関わり合い・育ち合う関係を継続するためには、子どもたちが横並びとなる関係、仲間同士が共感できる関係、共に適応しあう関係が必要であることを明らかにした。

小柳津和博・野々山貴(2022.11)インクルーシブ保育における子ども同士の関わり合いを促す保育者の専門性 重症心身障害児を含む集団に着目した質的研究 .リハビリテーション心理学研究,48(1), 51-63.

重症心身障害児を含む集団のインクルーシブ保育における保育者専門性について検討した。保育場面の分析から、子ども同士が関わり合えるインクルーシブ保育の保育者専門性として、予見的、即時的、共感的、未来的な4種類の創造力が存在する可能性が示唆された。

小柳津和博(2023.3)重症心身障害児を含む集団での子どもの育ち インクルーシブ保育として共に育つ視点を考える .桜花学園大学保育学部研究紀要,27, 15-22.

重症心身障害児を含む集団のインクルーシブ保育として、すべての子どもたちが共に育つ上で必要な視点を整理した。共に育つためには障害児・周囲の子ども両者の思いを的確に把握し、分かりやすい内容・形に修正しつつ両者の内的活動共有を深める保育者の存在が必要であると考察した。

小柳津和博(2023.9)医療的ケアを要する重度・重複障害児への自立活動の指導 身体の動きを主とした学習の重点と教師の専門性 .育療,73,33-37.

医療的ケアを要する重度・重複障害児の自立活動の学習に関する実践の省察を通して、身体の動きを中心とした移動に関わる教師の専門性に関する視点の整理をした。子どもの心と身体の状態から環境接続が可能となるような身体的援助を創出できることが自立活動の指導に関する教師の専門性の一端になると考察した。

【研究2 成果（論文）】

小柳津和博（2021.3）インクルーシブ教育システムの推進に関わる現状と課題 海外のインクルーシブ教育施策を基にした検討 . 桜花学園大学保育学部研究紀要,23, 73-83.

日本とイギリスの教育施策を比較・検討することで、わが国のインクルーシブ教育に関わる現状と課題を整理した。今後の日本型インクルーシブ教育システムの推進には、特別支援教育の自立活動と保育の5領域の親和性を活用し、発達初期から子どもの多様な教育的ニーズを満たすための学びの下支えをすることが、子どもたちの個別最適な学びにつながると考察した。

小柳津和博（2021.11）日本型インクルーシブ教育システムにおける課題の可視化 米国の特別教育施策を基にした検討 . 桜花学園大学保育学部研究紀要,24, 21-33.

現在の日本型インクルーシブ教育システム構築に向けた課題について、アメリカの特別教育施策を基に検討した。日本の課題としては、「特別の教育ニーズ」を「障害」の文脈の閉じられた中で議論していること、連続性のある多様な学び場としての教育環境整備不足、の2点があると考察した。

【研究3 成果（論文）】

小柳津和博（2023.3）重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性 子ども同士の関わり合いを促す活動内容・参加方法に関する保育者の創造力 . 教科開発学論集,11, 1-9.

インクルーシブ保育を実施する保育所の職員を対象に行った調査。重症心身障害児を含む集団において、子ども同士が関わり合うために必要となる活動内容と参加方法について質的分析をした結果、6種類の共通する概念が抽出された。これらが重症心身障害児を含む集団のインクルーシブ保育の専門性の具体的様相として存在することを見出した。

【研究1 成果（学会発表）】

- ①小柳津和博・野々山貴（2020.5）インクルーシブ保育に必要な保育者の役割に関する研究 子ども同士の関わり合いを促す保育者の創造力 . 第73回日本保育学会ポスター発表.

重症心身障害児と定型発達児の関わり合いを促す保育者の役割について事例を基に検討した。インクルーシブ保育における子ども同士の関わりを促すためには保育者の役割として「予見的創造力」、「即時的創造力」、「共感的創造力」、「未来的創造力」の四つの構造があることを報告した。

- ②伊藤佐奈美、大島光代、松永泰弘、小柳津和博、藤本裕人（2020.9）インクルーシブ教育の発展を目指した教育環境の革新 多様性と共生の実現に必要なものとは. 日本特殊教育学会第58回大会自主シンポジウム.

重症心身障害児の活動参加を可能とするための視点として、環境への接続をいかに支援するかという視点から物的・人的の両面の保育環境について検討した。インクルーシブ教育環境を創る素地として多様性を前提とした社会構築の価値を子どもと共有することの重要性について報告した。

【研究3 成果（学会発表）】

- ③小柳津和博・野々山貴（2021.5）インクルーシブ保育における保育者の創造力に関する研究 重症心身障害児を含む集団の関わり合いを促すための専門性 . 第74回日本保育学会ポスター発表.

重症心身障害児を含む集団のインクルーシブ保育において、子ども同士の関わり合いを促すために必要は保育者の創造力についてアンケート調査を基に検討した。創造力を発揮

するには、子どもの支援において満ち足りた状態を理解している前提が必要であること、小出しに付け足す支援を創造できること、の2点が重要であることを報告した。

- ④小柳津和博・野々山貴（2021.9）重症心身障害児と関わり合うインクルーシブ保育を創造する力の考察. 日本特殊教育学会第59回大会, 口頭発表.

重症心身障害児との関わり合いを促す上で必要となる保育者の創造力の具体的情報を収集することを目的として調査を実施した。アンケートの結果、対象児・他児・保育者3者の関係の中、保育者の立ち位置を変化させて活動内容を創造すること、子どもを主語として参加方法を創造すること、の2点が重要であることが示唆されることを報告した。

【研究4成果（学会発表）】

- ⑤小柳津和博・野々山貴（2022.5）重症心身障害児との関わり合いを促すインクルーシブ自己評価項目の提案. 第75回日本保育学会ポスター発表.

重症心身障害児を含む集団における子ども同士の関わり合いを促すために保育者が重視する具体的行動指標として、アンケート調査から導き出した結果を基に自己評価できる項目内容を作成して提案した。

- ⑥小柳津和博・野々山貴（2022.9）重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性 子ども同士の関わり合いを促す自己評価項目の検討 . 日本特殊教育学会第60回大会, ポスター発表.

重症心身障害児を含む集団での保育者の専門性について調査した。インクルーシブ保育施設保育者は、予見的創造力にかかわる項目を重要な位置づけとする可能性が示唆された。また、即時的創造力の言葉がけに関する支援を重視する可能性も示唆されることを報告した。

- ⑦小柳津和博・野々山貴（2023.5）重症心身障害児を含む集団における保育技術に関する研究 子ども同士の関わり合いを促す重点項目の抽出 . 第76回日本保育学会ポスター発表.

重症心身障害児を含む集団に必要な保育技術に関して、3種類の施設を対象としたアンケート調査を実施した。創造力に関する項目が重要項目として上位に位置する結果から、保育における創造力に関わる項目が重視される傾向にあることを報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 小柳津和博・野々山貴	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 インクルーシブ保育における子ども同士の関わり合いを促す保育者の専門性 - 重症心身障害児を含む集団に着目した質的研究 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リハビリテーション心理学研究	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小柳津和博	4. 巻 11
2. 論文標題 重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性 - 子ども同士の関わり合いを促す活動内容・参加方法に関する保育者の創造力 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教科開発学論集	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小柳津和博	4. 巻 27
2. 論文標題 重症心身障害児を含む集団での子どもの育ち インクルーシブ保育として共に育つ視点を考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 桜花学園大学保育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小柳津和博	4. 巻 24
2. 論文標題 日本型インクルーシブ教育システムにおける課題の可視化 米国の特別教育施策を基にした検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桜花学園大学保育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小柳津和博	4. 巻 22
2. 論文標題 インクルーシブ保育における関わり合いの意義 - 重症心身障害児と共に学ぶことによる教育的価値を考える -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桜花学園大学保育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小柳津和博	4. 巻 23
2. 論文標題 インクルーシブ教育システムの推進に関わる現状と課題 - 海外のインクルーシブ教育施策を基にした検討 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桜花学園大学保育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小柳津和博	4. 巻 73
2. 論文標題 医療的ケアを要する重度・重複障害児への自立活動の指導 身体の動きを主とした学習の重点と教師の専門性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 育療	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小柳津和博・野々山貴
2. 発表標題 重症心身障害児を含む集団における保育技術に関する研究 子ども同士の関わり合いを促す重点項目の抽出
3. 学会等名 第76回 日本保育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小柳津和博・野々山貴
2. 発表標題 重症心身障害児との関わり合いを促すインクルーシブ保育自己評価項目の提案
3. 学会等名 第75回 日本保育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小柳津和博・野々山貴
2. 発表標題 重症心身障害児を含むインクルーシブ保育の専門性 - 子ども同士の関わり合いを促す自己評価項目の検討 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会 第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小柳津和博・野々山貴
2. 発表標題 インクルーシブ保育における保育者の創造力に関する研究 重症心身障害児を含む集団の関わり合いを促すための専門性
3. 学会等名 第74回 日本保育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小柳津和博・野々山貴
2. 発表標題 重症心身障害児と関わり合うインクルーシブ保育を創造する力の考察
3. 学会等名 日本特殊教育学会 第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小柳津和博・野々山貴
2. 発表標題 インクルーシブ保育に必要な保育者の役割に関する研究 - 子ども同士の関わり合いを促す保育者の創造力 -
3. 学会等名 第73回 日本保育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大島光代・伊藤佐奈美・松永泰弘・小柳津和博・藤木裕人
2. 発表標題 インクルーシブ教育の発展を目指した教育環境の革新 - 多様性と共生の実現に必要なものとは -
3. 学会等名 日本特殊教育学会 第58回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関